

事務事業名		鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間		予算科目				
	施策名	20 地域の特性を生かした農林業の振興				会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 農業経営の安定化				01	06	01	08	08
根拠法令										
所属	部課名	農林水産部農林課		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成25 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
	課長名	尾坪 明								
	係 名	林業係	電話		27-3111					
	担当者	佐藤 類	内線		7127					
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
国の平成24年度補正事業。岩手県鳥獣被害防止対策推進協議会が基金を造成し、通常の捕獲目標等を強化した「緊急捕獲等計画」に基づく以下取組を継続的に支援。 (1) 野生鳥獣の緊急捕獲活動の支援(捕獲した者への頭数に応じた捕獲活動経費の助成、捕獲個体の焼却等処理の支援) (2) 地域における侵入防止柵の機能向上の支援 大船渡市緊急捕獲計画(平成25年度策定)に基づき、ニホンジカの有害捕獲を実施。 平成25年度については、猟友会へ委託 平成26年度については、平成26年4月に設立した、大船渡市鳥獣被害対策実施隊により実施						総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金		
								都道府県支出金		4,000
								地方債		
								その他		
								一般財源		
								事業費計 (A)		4,000
人件費	正規職員従事人数		1							
	延べ業務時間		100							
	人件費計 (B)		400							
	トータルコスト(A)+(B)		4,400							

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

・猟友会との委託契約

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

・鳥獣被害防止実施隊による有害捕獲

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

シカの生息頭数の低減を図る

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

農林業被害の減少

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

安定して農林業を営む

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称		単位
ア	捕獲頭数	頭
イ		
ウ		

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称		単位
カ	シカの生息頭数(推計)	頭
キ		
ク		

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称		単位
サ	シカによる農林業被害額	千円
シ		
ス		

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円			3,200	4,000	4,000	
		地方債	千 円						
		その他	千 円	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千 円	0	0	0	0	0	0
	人件費	事業費計 (A)	千 円	0	0	3,200	4,000	4,000	0
		正規職員従事人数	人	0	0	4	4	4	
		延べ業務時間	時 間	0	0	100	100	100	
		人件費計 (B)	千 円	0	0	400	400	400	0
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	0	0	3,600	4,400	4,400	0
⑤活動指標	ア	頭	0	0	400	500	500		
	イ		0	0	0	0	0		
	ウ								
⑥対象指標	カ	頭	0	0	5,000～7,000	5,000～7,000	5,000～7,000		
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	千円	0	0	20,138	14,154	14,154		
	シ								
	ス								

事務事業ID	1610	事務事業名	鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業
--------	------	-------	-----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

近年の野生鳥獣の個体数増加によって農作物被害が深刻化・広域化しており、集中的かつ効果的な対策を早急に講じることが必要なことから、基金を造成し集中的な捕獲活動により野生鳥獣の個体数を抑制する「緊急捕獲活動」と既存の侵入防止柵の延長や強化など、地域の実情に合わせてきめ細やかに対応する「侵入防止柵の機能向上」などの集中的かつ効果的な被害対策の取組について支援するため、国の平成24年度補正により創設された。岩手県鳥獣被害防止対策推進協議会が基金を造成し、通常の捕獲目標等を強化した「緊急捕獲等計画」に基づく取組に対し、平成25年度より事業開始

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

近年の野生鳥獣の個体数増加によって農林作物被害が深刻化している。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・当該基金事業の継続化が望まれている

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ ・野生鳥獣による農作物被害が減れば、農林業家の安定した農林作物の生産及び供給につながり、経営の安定化に結びつく。その結果、農林業の振興が図られる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ ・被害を防止する適切な措置を講じなければ、農林業収入の減少及び農林業家の生産意欲の低下につながるため、市において積極的に関わっていかねばならない。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ ・野生鳥獣を軽減するためには、当事業の拡充が妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ ・事業の継続により、野生鳥獣による農林作物被害を受けている市民の被害軽減を図ることができることから、引き続き事業を実施していく必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ ・適切な防除措置を講じなければ、野生鳥獣による被害の拡大を招き、農林業収入の減少及び農林業家の生産意欲の低下につながり、農林業振興の妨げとなることから、廃止・休止はできない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ ・実施隊による野生鳥獣の捕獲及び処理は、本事業のみであり、他事業との統廃合はできない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ・現時点で事業費を削減することはできないが、事業の継続によって農作物等の被害が大幅に減少すれば、実情に応じて事業費を削減することは可能である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ・業務所要時間は適切であり、削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ ・実施隊の活動範囲は、市内全域であることから適正である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	補正事業であったことから、事業の実施時期が限られたが、予定していた頭数を有害捕獲することが出来た。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(4) 改革・改善による期待成果																					
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) ・野生鳥獣による農林業被害額は毎年変動するが、集落周辺に棲みつく野生鳥獣の増加に伴い、被害額も増加する可能性が高いことから、当該事業を活用し、有害捕獲を継続実施し、事業成果の維持を図る。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)											
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																		
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td>●</td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			●																		
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																						

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	農林課長 尾坪 明

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている
- ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|---|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☐ 適切 | ☒ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

・適切な事務執行がなされている。
・駆除することにより全体の生息頭数は減るが、里山等の被害が減らないため、駆除する場所、駆除方法等、駆除のための市民への周知等検討する必要がある。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- | | | | | |
|--|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 廃止 | ☐ 休止 | ☐ 目的再設定 | ☐ 事業統合・連携 | ☐ 現状維持 |
| 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) | | | | |
- (上記方向性に対する具体的な内容)

野生鳥獣の捕獲は、農作物の被害対策の重要な柱であり、継続的な実施が必要であるが、捕獲する場所が人家から離れた山林等となっているため、全体的に頭数は減少しているものの里山に生息する鹿の捕獲が進んでいない。このため捕獲場所等の検討が必要であり、市民へ捕獲の周知、協力等を要請する必要がある。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項